

厚沢部町立厚沢部中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名	厚沢部町立厚沢部中学校 (生徒数 75名)
小学校名	厚沢部町立厚沢部小学校 (児童数 101名)
	厚沢部町立館小学校 (児童数 33名)
	厚沢部町立鶉小学校 (児童数 15名)

1 推進地域の状況

厚沢部町中心部に位置する厚沢部中学校は、全町を中学校区としている。校下には厚沢部小学校・館小学校・鶉小学校を有している。

全国学力・学習状況調査の結果は、小学校、中学校共に全教科で全国の平均正答率を超えており、学力は高い傾向にある。

また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、基本的な生活習慣が概ね身に付いているが、「朝食を毎日食べていない」や「テレビ・ネットの使用時間が1日4時間以上」と回答している児童生徒が一定数いる現状がある。

不登校児童生徒については、前年度から継続している不登校児童生徒が3名いる。

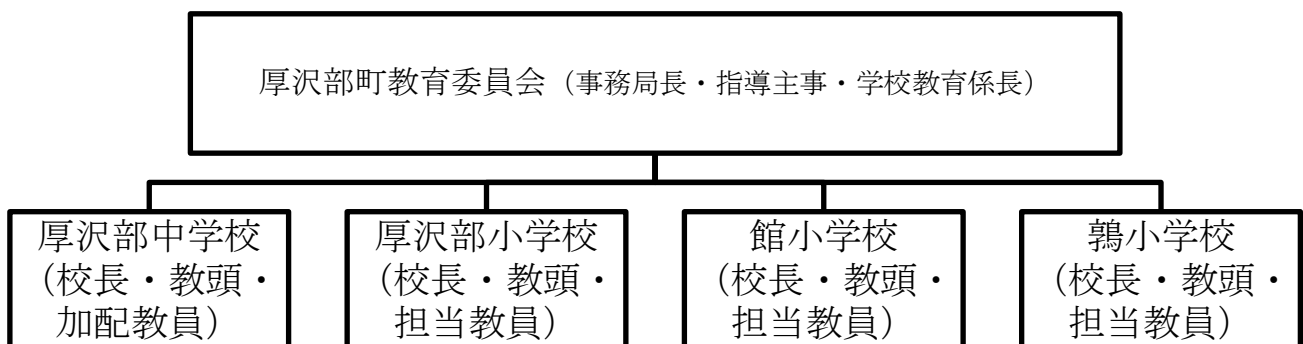
いじめの状況は令和5年度末で認知件数が9件あり、認知されたいじめは、全て解消されている。しかし、校下には極小規模な小学校もあり、小さなコミュニティの中で生活しているため、人間関係が長期間にわたり変化がなく、一度軋轢が生じると解消が難しい傾向にある。また、いじめとは認知していないが、「嫌な行為をされたことがある」、「嫌な行為を他人が受けていたのを見たことがある」と回答した児童生徒も一定数おり、今後も継続的にいじめの未然防止に努める必要がある。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- ・厚沢部町小中一貫教育推進プロジェクトを中心に、教育課程や生徒指導及び特別支援教育に係る定期的かつ継続的に部会を行うことにより、小学校間及び小・中学校間で情報共有ができ、小学校卒業から中学校入学に係る際の円滑な接続を推進する。
- ・小学校3校間の連携を促進し、合同授業等を通して児童間の適切な人間関係を構築する。
- ・小学校第5・6学年児童の中学校登校を通して、中学校入学に向けた児童の期待感の醸成と不安感の軽減を図る。
- ・家庭や関係機関との連携を強化し、地域総ぐるみで子どもを育てる意識の高揚に向けた啓発活動に取り組む。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・中1ギャップ検討委員会（小中一貫教育コアチーム会議）及び厚沢部町小中一貫教育推進プロジェクト各部会等を定期的に実施している。
- ・各部会には教育課程部会、生徒指導部会、特別支援部会を設置し、それぞれの部会では各種調査等の分析、子ども理解支援ツール「ほっと」の分析・交流、生徒指導実態交流等を定期的に行う。
- ・厚沢部町 ICT 教育推進委員会を組織し、ICT 活用に関する研修を随時実施している。
- ・不登校児童生徒及び不登校の傾向が見られた児童生徒に対する対応については、校種間での連携を図り、改善に努める。

(3) 加配教員の役割

- ・義務教育9年間の最終学年である中学校第3学年のあるべき姿（いじめ0、不登校0、主体的で協働的に取り組む生徒）について、小・中学校教員間で共通確認するとともに、中学校第3学年をゴールとして見据え、そこから逆算してどのような資質・能力を各発達段階に応じて身に付けさせる必要があるのかを明確にした指標を作成する。
- ・小学校第5・6学年児童の中学校登校、小学校間の児童交流等を計画し、ソーシャルスキルを育成する場について、義務教育9年間を通して意図的に設定するための年間指導計画の見直しや小・中学校間の連絡・調整を行う。
- ・「ほっと」等の分析ツールを活用し、児童生徒の個人や集団での行動傾向、集団での位置、児童生徒の思いを分析し、小・中学校で取り組むべき共通の課題を見いだす。
- ・調査結果を踏まえた指導方針の作成、改善と学校間情報共有を図る。
- ・児童生徒理解支援シート等を活用して、不登校児童生徒への支援策を作成し、小・中学校で共有することにより、不登校児童生徒の理解や学びの保障等の取組に生かせるようにする。
- ・家庭や関係機関との連携として、児童生徒の活動を地域に公開する取組を行い、児童生徒を取り巻く環境について理解を図り、地域ぐるみで児童生徒を育てる意識を醸成する。

4 中1ギャップ解消プランの実際の構成

時 期	厚沢部中学校	厚沢部小学校・館小学校・鶉小学校
4 月	○新入学生徒情報の共有 ・学習面、生活面、交友関係、特別支援などの情報について	
5 月	○中1ギャップ検討委員会（小中一貫教育コアチーム会議） ・小中一貫教育の重点的取組について ・「中1ギャップ問題未然防止事業」について ・各部会の活動について（プラン検討）	

時 期	厚沢部中学校	厚沢部小学校・館小学校・鶉小学校
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第 1 回生徒指導交流会 <ul style="list-style-type: none"> ・全町の教職員が中学校の授業を参観し、 中学進学後の児童生徒の変容、実態、 効果的な指導について協議 ○ ほっとの実施（各校） <ul style="list-style-type: none"> ・各学校でほっとを実施し、各校で分析 ○ 第 1 回小 6 中学校登校 <ul style="list-style-type: none"> ・小学 6 年生が中学校登校して授業見学 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>	
7・8 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」の分析結果の交流 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会で各校の分析結果を交流し、効果的指導を協議 	
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援児童生徒実態の交流 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援部会で児童生徒の実態を交流し、効果的な指導を協議 ○ 中 1 ギャップ検討委員会（小中一貫教育コアチーム部長会議） <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の現状と課題について協議、整理 	
1 0 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」の分析結果の交流 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会で各校の分析結果と変容を 交流し、効果的指導を協議 ○ 小 5 中学校登校（インフルエンザ感染症のため中止） <ul style="list-style-type: none"> ・中学校文化祭総練習の見学と中学授業体験 	
1 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第 2 回小 6 中学校登校 ○ 子ども議会（オンライン） <ul style="list-style-type: none"> ・児童会役員と生徒会役員で現状の課題について の実態交流と解決に向けた話し合い ○ 中 1 ギャップ検討委員会（小中一貫コアチーム会議） <ul style="list-style-type: none"> ・現状課題把握と取組内容の修正、協議 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div>	
1 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第 2 回生徒指導交流会 <ul style="list-style-type: none"> ・全町の教職員が小学校の授業を参観し、 効果的な指導について協議 ・不登校、いじめの現状交流と効果的な指導の 在り方についての協議 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div>	

時 期	厚沢部中学校	厚沢部小学校・館小学校・鶉小学校
1・2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回小6 中学校登校（中学校入学説明会） <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校に関する説明と中学生との交流（小学生の質問に対する応答） ○ 中1ギャップ検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状把握（授業参観）、取組内容の修正、協議 ○ 「ほっと」分析結果交流 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導部会で分析結果を交流、効果的指導の協議 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップ検討委員会（小中一貫コアチーム会議） <ul style="list-style-type: none"> ・ 取組の反省、成果と課題の共有、次年度展望 	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

厚沢部町小中一貫教育推進プロジェクト教育課程部会において、小学校教員との会議を年間5回開催し、取組の成果や課題について報告することによって、小・中学校間での情報共有が進み、各学校での指導に生かすことができた。

○ 効果的な教育課程の改善

配慮が必要な児童生徒について、小学校と中学校の相互の授業参観や新年度に向けた引継ぎについて、児童生徒の実態を的確に把握し、小・中9年間を通して個別最適な教育環境が保障されるよう改善を図った。

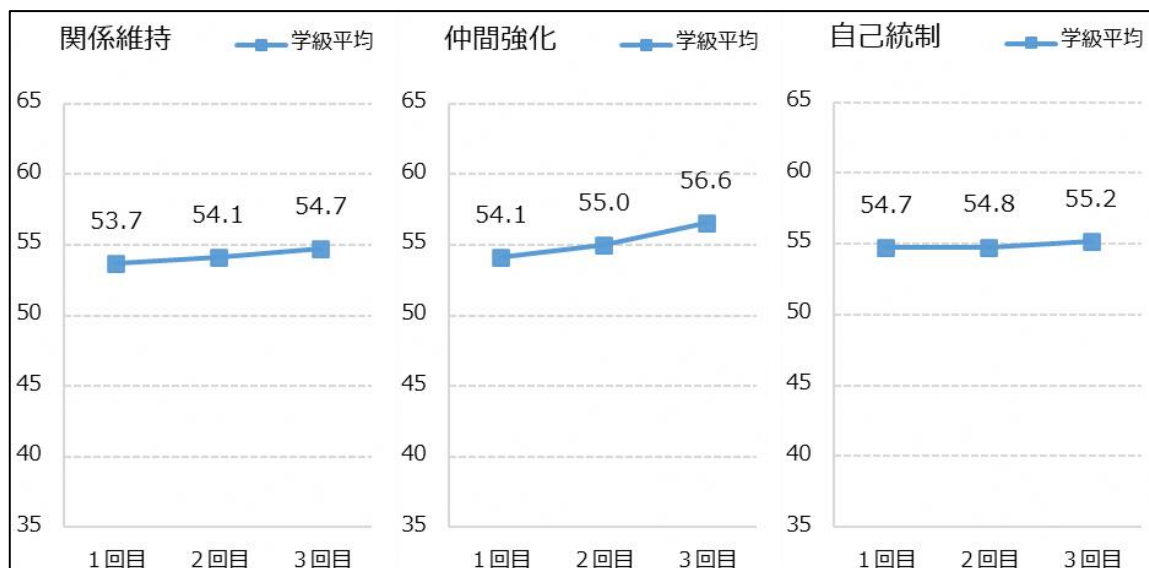
○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

生徒の機微の変化について細かく察知することができるとともに、教職員間で情報共有し、組織として対応を協議することにより、生徒の心身の健康状態の細やかなケアができ、不登校の未然防止につながった。

○ 教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

外部講師（北海道医療大学心理学部教授、冨家氏）と定期的に ICT カウンセリングを行い、ソーシャルスキルに関する指導方法についてアドバイスをいただいた。

また、現2年生が令和4年5月から、令和5年12月まで計3回実施した「ほっと」では、「関係維持」「仲間強化」「自己統制」いずれの項目においても、着実にポイントが上昇し、人間関係を築く力の育成が図られてきている。



6 今後の課題と対応

○ 9年間を見通した教育課程の編成について

義務教育9年間の最終学年である中学校第3学年のあるべき姿(いじめ0、不登校0、主体的で協働的に取り組む生徒)については、今後も小・中学校教員間で共通理解のもと、身に付けさせる資質・能力を捉え、教育課程改善の視点づくりに積極的に取り組む必要がある。

○ 学校間の情報共有方法の効率化

小学校から中学校への生徒指導関連事項については、記録用の様式を統一し、今後も円滑な情報共有を行っていく必要がある。

○ 「ほっと」や諸調査の分析を活用した取組

小中連携したソーシャルスキルトレーニングの実施について、校種間で系統的に実施するカリキュラムを作成と、教員がファシリテーターとして効果的に活動できるようにするための研修に取り組む必要がある。

○ 別室登校対応の検討

不登校の未然防止は一定の効果をあげているが、別室登校をしている児童生徒へのきめ細かな対応は依然として不十分であるため、今後、当該児童生徒への対応についても本事業で対応を協議し、充実を図る必要がある。

○ 家庭や関係機関との連携

ホームページ等での発信により本事業のアピールは行うことができた。一方で、様々な感染症の感染拡大防止のために学校見学等を中止せざるを得ない時期があったため、地域を巻き込んで子どもを育成する意識の高揚に向けた啓発活動については部分的に実施するに留まった。今後も児童生徒が活動している様子を直接参観できるような機会を意図的、計画的に設けるなどして、取組の成果を還流していく必要がある。

旭川市立光陽中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名	旭川市立光陽中学校	(生徒数 258 名)
小学校名	旭川市立豊岡小学校	(児童数 288 名)
	旭川市立東町小学校	(児童数 220 名)

1 推進地域の状況

本推進地域においては、落ち着いた学校生活を送る児童生徒が多い一方、主体的・積極的な行動にやや欠ける面が見られ、中学校に入学後、不登校・不登校傾向の生徒が増加する傾向がある。また、全国学力・学習状況調査においても、基礎学力の定着やメディアに接する時間等の生活習慣に課題が見られることから、中学校区における学校間連携の強化を図り、学習指導及び生徒指導の充実を図る必要がある。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

☆主体的に学び、よく関わり高め合う児童生徒の育成 ～本推進地域がめざす子どもの姿

【育成の視点】自分のよさや可能性を伸ばす子 ○目標を持ち、意欲的に学ぶ態度

*学習やスポーツ、日常生活など幅広い活動で

○学習の基礎・基本の確実な定着

○望ましい生活習慣と家庭学習の定着

○いじめを許さない態度

○お互いを尊重し、学び合う関係づくり

○場に応じたあいさつや礼儀

多様な他者と協働する子

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図

中1ギャップ検討委員会（光陽地区小中連携会議）

教頭・主幹教諭部会

教務部会

生徒指導部会

特別支援部会

構成員

光陽中学校 校長 教頭 主幹教諭 教務部長 加配教諭 生徒指導部長 特別支援コーディネーター

豊岡小学校 校長 教頭 主幹教諭 教務部長 生徒指導部長 特別支援コーディネーター

東町小学校 校長 教頭 教務部長 生徒指導部長 特別支援コーディネーター

旭川市教育委員会 主幹 主事

(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- 既存の光陽地区小中連携会議の組織を生かし、推進地域の中学校区を単位とした「中1ギャップ検討委員会」を設置し、定期的な開催や事業取組の教育課程への適切な位置付けを推進している。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」をはじめ、不登校児童生徒及び不登校の傾向が見られた児童生徒の情報交流、全国学力・学習状況調査や児童生徒の問題行動や不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の結果等を通して、客観的なデータに基づく検証と組織的な取組を推進した。
- スクールカウンセラーを講師とした小・中学校合同研修会を実施した。

(3) 加配教員の役割

- 本委員会の調整や会の進行等を担うとともに、中1ギャップ問題の解消に向けたこれまでの取組の見直しや新たな取組の提案等を行った。
- 推進地域の全教職員が学習指導や生徒指導に係る成果や課題等を共有することができるよう、各種調査の結果分析や、中1ギャップ検討委員会の各部会との連携・調整を行った。

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	光陽中学校	豊岡小学校・東町小学校
4月	【推進体制の整備】 ◎各学校 ○中1ギャップ問題未然防止事業についての共通理解 ○中1ギャップ解消プランの作成	
	【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎光陽中学校区教育の重点目標の整理 ◎学習規律の確認 ◎家庭学習の手引きの見直し ◎学習・生活習慣確立の取組	
	【不登校への対応】 ◎不登校生徒や不登校傾向の見られる生徒への早期対応 ◎不登校生徒へのICT等を活用した支援の取組の確認	
	【自殺予防教育】 ◎学校いじめ防止基本方針に則った組織整備 ◎いじめ防止授業・いじめ撲滅宣言・・・児童生徒への啓蒙	
5月	【自殺予防教育】 ◎いじめアンケート①・・・早期発見と早期対応及び教育相談の実施	
	【その他の取組】 ◎光陽中学校区学校運営協議会・・・本事業の説明と協力依頼	
6月	【推進体制の整備】 ◎第1回中1ギャップ検討委員会（小中連携会議） ○教育の重点目標の確認 ○児童・生徒「育ちのめやすと活動例」の確認 ○CS・小中連携（中1ギャップ解消）ロードマップの確認 ○中1ギャップ問題未然防止事業「令和5年度実施計画書」・「令和4年度成果資料」の確認 ○部会交流 【不登校への対応】 ◎不登校生徒の状況や対応策の交流	
7月	【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎参観授業の相互交流 ◎特別支援学級説明会	
	【人間関係を築く力の育成】 ◎「ほっと」の実施・・・分析と活用	
	【自殺予防教育】 ◎心と身体のチェックの実施と教育相談	
8月	【自殺予防教育】 ◎心と身体のチェックの実施と教育相談	
	【人間関係を築く力の育成】 ◎中学校部活動体験会 *中止	
	【その他の取組】 ◎3校合同交通安全指導	

<p>9月</p>	<p>【推進体制の整備】 ◎第2回中1ギャップ検討委員会（小中連携会議） ○本事業の内容と目的、重点目標・年間計画の確認 ○部会交流</p> <p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎特別支援学級個別相談（～12月）</p> <p>【不登校への対応】 ◎不登校生徒の状況や対応策の交流</p> <p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎小学校訪問説明会</p>
<p>10月</p>	<p>【自殺予防教育】 ◎「自殺予防教育プログラム」の実施・・・スクールカウンセラーと連携した中学校特別活動</p> <p>【人間関係を築く力の育成】 ◎「ほっと」の実施・・・分析と活用</p>
<p>11月</p>	<p>【推進体制の整備】 ◎第3回中1ギャップ検討委員会（小中連携会議） ○本事業の内容と目的、重点目標・年間計画の確認 ◎小中連携アンケートの実施・・・成果と課題・次年度への見直し ○部会交流</p> <p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎全国学力・学習状況調査の結果分析と交流 *第4回実施 ◎学習・生活習慣確立の取組 ◎体力運動能力テストの結果交流</p> <p>【不登校への対応】 ◎児童・生徒の「学びを止めない」支援の交流 ◎不登校生徒の状況や対応策の交流</p> <p>【自殺予防教育】 ◎スクールカウンセラーによる研修会 ◎いじめアンケート②・・・早期発見と早期対応及び教育相談の実施 ◎「自殺予防教育プログラム」の実施・・・精神の健康についての学習（保健体育科）</p> <p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎小中特別支援合同学習 ◎参観授業の相互交流</p>
<p>12月</p>	<p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎参観授業の相互交流 ◎学力向上学習プリント集の活用 ◎長期休業中の学習会 ◎中学校部活動体験会参考資料配布</p> <p>【その他の取組】 ◎光陽中学校区学校運営協議会・・・本事業の進捗状況の説明</p> <p>【自殺予防教育】 ◎心と身体のチェックの実施と教育相談</p>
<p>1月</p>	<p>【自殺予防教育】 ◎心と身体のチェックの実施と教育相談</p>

2月	<p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】</p> <p>◎新入学生説明会・中学校授業見学 ◎全国学力・学習状況調査の結果分析と交流 ◎光陽中学校区「家庭学習のめやす」の作成</p> <p>【自殺予防教育】</p> <p>◎いじめアンケート③・・・早期発見と早期対応及び教育相談の実施</p> <p>【その他の取組】</p> <p>◎光陽中学校区学校運営協議会・・・本事業の進捗状況の説明</p> <p>【推進体制の整備】</p> <p>◎第4回中1ギャップ検討委員会（小中連携会議） ○本事業の内容と目的、重点目標・年間計画の確認 ○評価と課題・次年度への見直し ○地域・保護者への本事業の成果の周知</p> <p>【不登校への対応】</p> <p>◎不登校生徒の状況や対応策の反省</p>
3月	<p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】</p> <p>◎中学生（生徒会）による小学校訪問 ◎新入学生に関わる丁寧な引継ぎ ◎キャリアパスポート引継ぎ</p>

5 事業の成果

- **加配教員を配置したことによる成果**
 - ・本委員会の調整や会議の進行のみならず、不登校児童生徒に対する組織的な取組や「自殺予防教育プログラム」、いじめ撲滅に向けた取組、中学校部活動体験会や新入学生説明会・中学校授業見学といった各種事業等を推進したことにより、3校の全教職員が成果や課題等を共有し、今後の改善策等について検討することができた。
- **効果的な教育課程の改善**
 - ・全家庭に本推進地域のめざす子ども像を周知し、統一した学習規律の設定、児童生徒の家庭学習の習慣化に向けた取組、授業参観交流や特別支援学級の合同学習、新入学生説明会や小中の丁寧な引継ぎ等を教育課程に位置付けたことにより、9年間を見通した一貫した取組を計画的に推進することができた。
- **アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果**
 - ・「心と身体のチェック」を実施し、生徒個人票等を活用しながら、きめ細かい教育相談を行ったことにより、生徒の悩みの早期発見や悩みを抱える生徒に対する早期対応へつなげることができた。
- **家庭学習の定着に向けた取組**
 - ・児童生徒の学習習慣等の状況を基に、3校が考える望ましい家庭学習の習慣について整理したことにより、学校・家庭・地域が一体となって家庭学習の習慣化をめざすための「家庭学習のめやす」を作成することができた。
- **児童生徒の交流の充実**
 - ・3校合同交通安全指導の取組、児童生徒の交流を取り入れた中学校授業見学や中学生による小学校訪問を実施したことにより、中学校入学前の児童の不安を解消するとともに、9年間を見通した児童生徒の円滑な学習支援の取組を推進することができた。

6 今後の課題と対応

- **家庭学習の定着に向けた取組**
 - ・今年度作成した本推進地域の「家庭学習のめやす」を全教職員・保護者・児童生徒に十分に周知し、家庭学習を含めた望ましい学習・生活習慣の確立に向けて、地域ぐるみで子どもの成長を見守る姿勢を更に強化するための啓蒙活動が必要である。
- **ICT等を活用した支援の充実**
 - ・効果的な活用事例等を取り入れながら学校と家庭が丁寧に相談を重ね、より一層充実した不登校児童生徒に対するICT等を活用した支援計画を策定する必要がある。

鷹栖町立鷹栖中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 鷹栖町立鷹栖中学校 (生徒数 170 名)
 小学校名 鷹栖町立鷹栖小学校 (児童数 117 名)
 鷹栖町立北野小学校 (児童数 184 名)

1 推進地域の状況

中学校では、いじめの認知件数や不登校生徒数がここ数年高い状況にある。いずれの要因も多様化しており、それらの生徒に寄り添った対応が必要である。特に不登校生徒については、小学校段階から継続的に不登校傾向が見られるため、9年間を見通した対応を早期から継続的に行うことにより、児童生徒の不安要素を取り除くとともに、自己指導能力の育成を目指し、自己形成や社会的資質・能力を育むための充実した指導と体制を構築する必要がある。

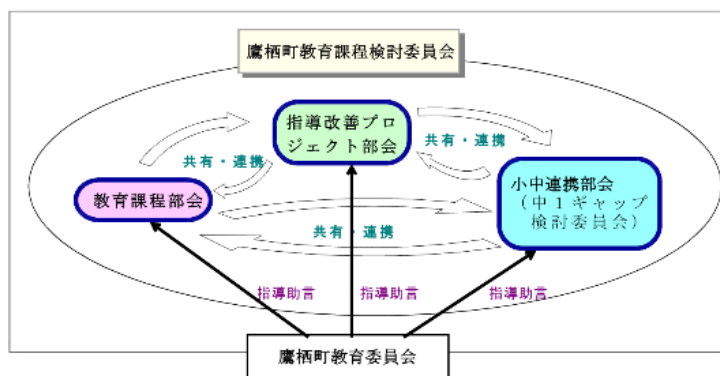
2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- ・学習指導・生徒指導の両面からの指導の充実を図り、児童生徒の不安要素を取り除く手立てを講じるとともに、小・中学校間の円滑な接続とよりよい集団づくりを通して望ましい人間関係を構築し、不登校児童生徒数の減少を目指す。
- ・よりよい集団づくりを通して、児童生徒同士が認め合い、高め合う雰囲気醸成し、児童生徒同士の関わり合いを深める児童会及び生徒会を中心とした自治的な活動を実施し、いじめの根絶を目指す。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図

	鷹栖小	北野小	鷹栖中	町教委
校長	*1	*1	1部会長	
教頭	1	1	1事務局長	
教務(主任)	1	1	1	1係長
生徒指導(主事)	1	1	1	1主事
児童会生徒会	(1)	(1)	(1)	



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・既存の「鷹栖町教育課程検討委員会」内に「小中連携部会（中1ギャップ検討委員会）」を新設し、教育課程及び生徒指導の充実に向けた体制づくりを行うとともに、地域や関係機関とも連携し、地域全体で子どもを育成するよう努めた。
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」を各校で年2回実施し、分析結果について、各学校の生徒指導担当が情報交流し、児童生徒の現状把握や今後の支援等について協議を行った。
- ・生徒理解をより深めるために、町のSSWを講師に迎え、小・中学校の教職員向け研修会を開催し、学校適応に課題のある生徒の対応について研修を行った。

(3) 加配教員の役割

- ・ 班会議や部会会議に向けた町内3校の日程調整を行った。
- ・ 各会議や各種調査結果を踏まえ、現状の把握と改善策の提案等を行った。

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	鷹栖町立鷹栖中学校	鷹栖町立 鷹栖小学校・北野小学校
4月	<p>第1回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 教務班：小中学力の課題とつまずきを視点とした取組についての協議 生徒指導班：円滑な人間関係作りに向けた取組についての協議</p> <p>全国学力・学習状況調査</p>	
5月	<p>資料「鷹栖町小中連携の取組について」を用いた各学校の教職員への周知 授業交流の連絡調整</p>	
6月	<p>第2回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 教務班：学力向上に向けた分析と改善策の検討 町内合同研修会の実施 生徒指導班：「ほっと」の実施と交流、児童生徒の情報交流</p> <p>教務班：授業改善に向けてのアンケート実施</p>	
7月	<p>第3回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 教務班：全国学力・学習状況調査結果・分析・改善策交流 授業参観の実施 生徒指導班：町内合同研修会の実施</p> <p>教務班：授業改善に向けたアンケート結果の確認 小中9年間の教育課程の編成について</p>	
8月	<p>生徒指導班：心と身体のチェック</p> <p>生徒指導班：児童会・生徒会活動の交流</p>	
9月	<p>生徒指導班：「ほっと」の実施</p>	

10月	<p>第4回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） ・小中連携事業と後期の取組についての確認</p>
11月	<p>「自殺予防プログラム」の実施</p>
12月	<p>第5回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 小中連携事業の成果と課題について 教務班：次年度の「ふるさと教育」について 生徒指導班：「ほっと」の結果交流、児童生徒の情報交流 いじめ撲滅標語の募集</p>
1月	<p>生徒指導班：心と身体のチェック</p> <p>新入生体験入学</p>
2月	<p>第6回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 今年度の反省とまとめ、次年度計画について 教務班：授業参観の実施 生徒指導班：児童会・生徒会活動の交流（いじめ撲滅標語の決定） いじめ撲滅標語の表彰</p>
3月	<p>第7回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 次年度計画の承認 教務班・生徒指導班の引継ぎ</p>

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中心に、学習面・生活面の小・中学校の取組について調整を図ったことにより、各校の成果や課題、共通の改善策等の具体的な取組につながるとともに、今後の取組の一層の推進に向けた組織体制や内容の構築をすることができた。

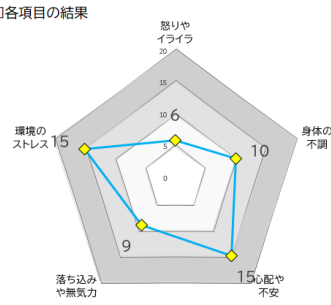
○ 効果的な教育課程の改善

- ・推進地域における目指す子どもの姿の実現に向けて、総合的な学習の時間「ふるさと共育」を中心に9年間で育成する資質・能力を踏まえて教育課程を改善したことにより、教職員が系統性を踏まえた指導を意識することができた。
- ・鷹栖町内の目指す子どもの姿の具現化や小中のスムーズな接続につながる体制づくりを構築することができた。
- ・教職員のアンケートから「表現する力の向上」を目指した授業改善を推進した。

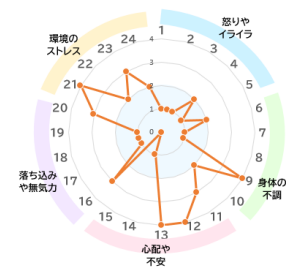
○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

長期休業前後の結果を加配教諭・不登校不適合支援コーディネーター・管理職が比較・検討し、生徒の心と身体のバランス状態を把握した上で教育相談を適切に実施したことにより、悩みを抱える生徒の早期発見、早期対応につなげることができた。本ツールを活用した適切な教育相談の実施は、今後、生徒の相談のしやすさにつながっていくと考える。

□各項目の結果



□各設問の結果



○ 教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

望ましい人間関係の構築を目指し、特別活動の時間において、第1学年で「相談しやすい会話の仕方」等を実施し、ロールプレイングで会話のやりとりをしたり、グループワークで他者の考えを聞いたりすることにより、よりよい人間関係について考える機会となった。また、道徳の時間において、導入時に「人によって色が異なって見える画像」を紹介し、自分の見えているものが周りとは必ずしも同じではない実体験をさせる工夫をしたことにより、人によって様々な考え方や捉え方があることに対する理解が深まった。

○ 教職員の事業に対する意識高揚

各種取組を通じて、中1ギャップ問題の解消や未然防止に向けた取組の必要性についての教職員間の意識の差が埋まるとともに、各教職員が9年間の系統性を意識した指導の必要性を感じたことにより、授業交流等の小・中学校間の連携を意識した教育活動を積極的に行うようになった。

6 今後の課題と対応

○ 教科横断的な教育課程の編成

- ・小・中学校間の継続的な指導や児童生徒理解を深めることができるよう、授業交流や児童生徒間の交流をより充実させる必要があるため、学校間の移動手段と移動に要する時間を確保する必要がある。
- ・「学習のつまずき」、「円滑な人間関係づくり」を視点とした取組の推進のため、児童生徒の実態に応じた具体的かつ効果的な手立てを検討する必要がある。

留萌市立留萌中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名	留萌市立留萌中学校 (生徒数 230 名)
小学校名	留萌市立東光小学校 (児童数 200 名)
	留萌市立緑丘小学校 (児童数 148 名)
	留萌市立潮静小学校 (児童数 52 名)

1 推進地域の状況

本地域では、中学校に進学すると不登校となる生徒が多く、全校生徒の約5パーセントを占めている。さらに、数字には表れていないが、3校の小学校から児童が本校に入学するため、人間関係等で悩みを抱える生徒が第1学年に多く見られる。このような状況から、中学校では外部専門家を交えた組織的な不登校対策が求められている。また、小中連携の一層の強化により、中1ギャップや新たな不登校を生まないことが急務となっている。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

【目指す15の姿】

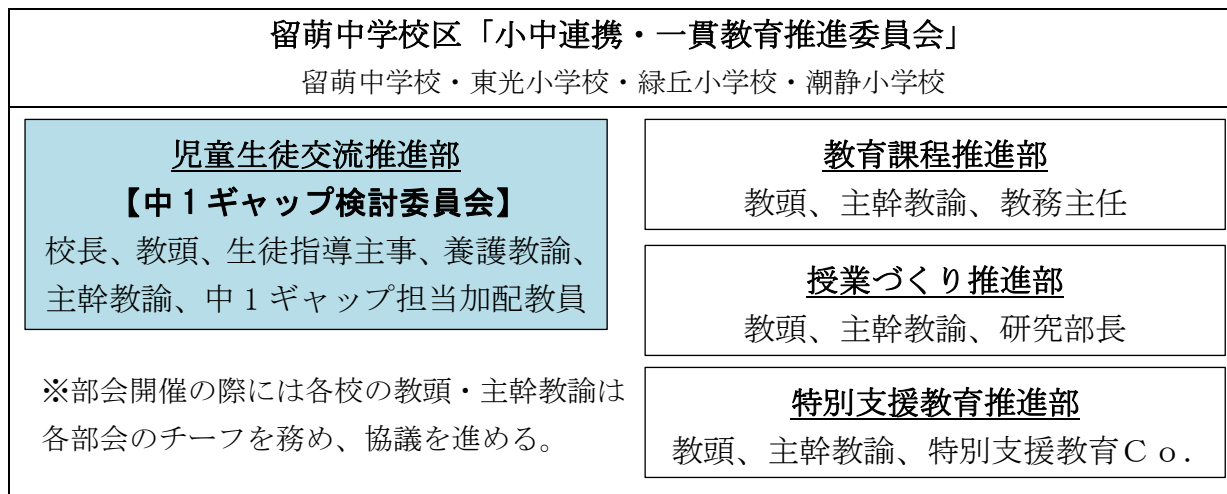
「主体的に考え行動し、前向きに粘り強く挑戦する子ども」

【本事業の目標】

- (1) 加配教員を中心に、関係機関との連携を通して、効果的な支援方法を検討するなど、課題を抱える児童生徒に対する適切な支援を行い、不登校児童生徒の解消を目指す。
- (2) 小・中学校間での学習規律・生活規律の改善に関する一貫した取り組みを推進し、中学校入学時の中1ギャップを防止する。
- (3) 中学校入学に対する安心感を培うことを目的に、小学校6年生の児童が中学校生活を体験できる活動を推進する。
- (4) 小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業、小・中学校が連携した取組を推進し、指導方法・指導体制を充実させて授業改善を図り、9年間で育成すべき資質・能力を確実に育む。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・本地域に設置されている「小中連携・一貫教育推進委員会」の4つの推進部及び「中1ギャップ検討委員会」の活動を通して、中1ギャップ未然防止に努める。
- ・中学校の既存の組織（いじめ防止緊急組織会議）を改め、「いじめ・不登校対策会議」を新設し、加配教員が中心となり校内体制の整備し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部専門家の協力を得て不登校生徒への支援を充実させる。

(3) 加配教員の役割

- ・中1ギャップ検討会議の企画・連絡・調整
- ・小・中9年間の教育課程の編成
- ・「ほっと」やQ-U検査、全国学力・学習状況調査等の各推進校の分析結果の集約及び推進地域の分析
- ・調査等の結果を踏まえた、中1ギャップ解消プランの改善
- ・新たな不登校を生まないための魅力ある学校づくりに向けた取り組みの企画・立案及び取組の推進
- ・不登校児童生徒に対するチームでの支援の実施

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	留萌中学校	東光小学校・緑丘小学校・潮静小学校
4 月	○ 指導方法工夫改善加配による乗り入れ授業の実施（外国語・外国語活動）【通年】	
	○ 全国学力・学習状況調査の実施、児童生徒質問紙の分析 ○ 「不登校対策会議」の開催【毎月】	○ 児童生徒理解校内研修（東光） ○ 健康相談（潮静）
5 月	○ 「中1ギャップ検討委員会」の開催【第1回】 (1) 本事業の趣旨説明、ロードマップの作成 (2) 配慮が必要な生徒についての情報共有	
	○ Q-U検査の実施、分析、結果共有	○ 児童生徒理解校内研修（東光、緑丘） ○ 教育相談（東光、緑丘、潮静）
6 月	○ いじめ調査の実施、分析、結果共有【第1回】	
	○ 「ほっと」の実施、分析【第1回】 ○ 「いじめ対策会議」の開催【第1回】 ・いじめ調査結果をもとにいじめの状況を把握し、支援の方策を検討	○ 「いじめ対策会議」（東光、緑丘、潮静）
7 月	○ 学校評価の実施【第1回】	
	○ 「心と身体のチェック」実施【第1回】	○ 健康相談（緑丘）
8 月 9 月	○ 校内研修の実施 ・諸検査及び学校評価結果に基づいた生徒理解、2学期の指導方針の確認	○ 健康相談（緑丘、潮静） ○ 児童生徒理解校内研修（潮静）
	○ 「心と身体のチェック」実施【第2回】 ○ 「いじめ対策会議」の開催【第2回】 ・いじめの解消についての確認	

時 期	留萌中学校	東光小学校・緑丘小学校・潮静小学校
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中1ギャップ検討委員会」の開催【第2回】 <ul style="list-style-type: none"> (1) 各校Q-U検査結果の交流 (2) いじめ・不登校等児童生徒に関する事例交流 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ調査の実施、分析、結果共有【第2回】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」の実施、分析【第2回】 ○ 教育相談の実施 ○ スクールカウンセラーによる学級活動SOS発信教室「ストレスとのつきあい方」(第2学年対象) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育相談(潮静) ○ 「いじめ対策会議」(東光、緑丘、潮静)  <p style="text-align: center;">【SOS発信教室の様子】</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ スクールカウンセラーによる学級活動SOS発信教室「心の黄色信号に気付こう」(第1学年対象) ○ 健康相談の実施 ○ 「いじめ対策会議」の開催【第3回】 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ調査結果をもとにいじめの状況を把握し、支援の方策を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育相談(東光、緑丘)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会」兼「中1ギャップ検討委員会」の開催【第3回】 <ul style="list-style-type: none"> (1) 推進校の授業参観 (2) 推進地域及び推進校において課題となっていることや成果の共有 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校評価の実施【第2回】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「心と身体のチェック」実施【第3回】 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・諸検査及び学校評価結果に基づいた生徒理解、3学期の指導方針の確認 ○ スクールカウンセラーによる学級活動SOS発信教室「ストレスとのつきあい方(ストレスコーピング)」(第3学年対象) ○ 「心と身体のチェック」実施【第4回】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康相談(潮静)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中1ギャップ検討委員会」の開催【第4回】 <ul style="list-style-type: none"> (1) 各校Q-U検査後の実践交流、中学校「ほっと」結果の提示 (2) 不登校児童生徒の事例交流(小6、中1を中心に) 		
2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新入生体験入学・入学説明会の企画・運営 ○ 「ほっと」の実施【第3回】 ○ 新入生生徒に関する引継ぎ ○ 「いじめ対策会議」の開催【第4回】 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの解消についての確認 ○ 指導方針の反省と次年度の方向性の確認、次年度の計画作成 	 <p style="text-align: center;">【新入生体験入学の様子】</p>

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員と児童生徒支援加配教員が連携し、定期的に不登校対策会議及びいじめ対策会議を運営することにより、生徒への支援が組織的に行われるようになった。また、加配教員を中心に中1ギャップ検討委員会を運営し、「ほっと」やQ-U検査、全国学力・

学習状況調査等の各推進校の分析結果の集約及び推進地域の分析を行い、小・中学校間で分析結果を情報共有・推進地域の課題に係る協議を行ったことにより、中1ギャップ未然防事業の意義や役割を意識した教育活動を進めることができた。

○ 効果的な教育課程の改善

推進地域（中学校区）における「目指す15の姿」（目指す子どもの姿）の実現に向け、9年間を見通して育成する資質・能力を全体で確認した上で事業をスタートした。今年度は、新入生体験入学において、小学校3校の第6学年が一堂に会してレクや給食体験の機会設定や中学校教員の乗り入れ授業を通して、中学校進学や学習に対する不安の解消を図ることができた。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

長期休業前後に4回実施したことにより、生徒の悩みや不安を細やかに見取ることができた。否定的な回答が多い生徒に対して、学年団を中心に観察や声掛けを多くしたり、教育相談や保護者への連絡を行ったりするなど、教職員で組織的に生徒に対するきめ細かな支援を行い、学校評価アンケート（生徒）の肯定的回答が第1学年では前期から後期で12ポイント増加した。

学校評価 「相談」の項目（第1学年）	実施回数	肯定的評価
困りごとや不安がある時は、先生や周りの大人にいつでも相談することができる。	1回目（7月）	66%
	2回目（12月）	78%（↑12pt）

○ 教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

自殺予防教育としてスクールカウンセラーによる学級活動「SOS発信教室」を各学年で実施したことにより、生徒の援助希求的態度の育成を図るとともに、教員間で生徒のSOSに対する相談体制の在り方について再確認することができた。加配教員は養護教諭と連携し、学級活動の年間指導計画を改善し、来年度以降も「SOS発信教室」を継続的に実施できるよう教育課程を整備した。

6 今後の課題と対応

○ 小・中学校全教職員の参画による中1ギャップ解消に向けての取組の一層の充実

中1ギャップ検討委員会で協議された内容等について各校での確実な周知と共通理解を図るようになるとともに、小中連携・一貫教育委員会の4つの部会の機能を生かした9年間で育むべき資質・能力の明確化と「目指す15の姿」の確実な育成に向けて、小・中学校相互の授業参観及び意見交流等を含む合同研修等の実施や小・中学校間で統一した学習規律・生活規律の見直しや9年間を見通した教育課程の改善等を推進していく必要がある。

枝幸町立枝幸中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名	枝幸町立枝幸中学校	(生徒数 110名)
小学校名	枝幸町立枝幸小学校	(児童数 170名)
	枝幸町立目梨泊小学校	(児童数 9名)
	枝幸町立岡島小学校	(児童数 8名)

1 推進地域の状況

本推進地域では、児童生徒の学習内容の定着に課題が見られているものの、本事業の推進をとおして、児童生徒の学習意欲が高まり、主体的に授業に臨む児童生徒が増加している。しかし、人間関係や学習に対する不安から欠席日数が多くなり、不登校となる児童生徒も見られるため、個々の学習状況に応じた学習支援や家庭学習習慣の定着に向けた取組を行うことが必要である。

本事業2年目の今年度は、昨年度の成果と課題を踏まえ、中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会を中心に関係機関と連携した不登校解消に向けた取組を行っている。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

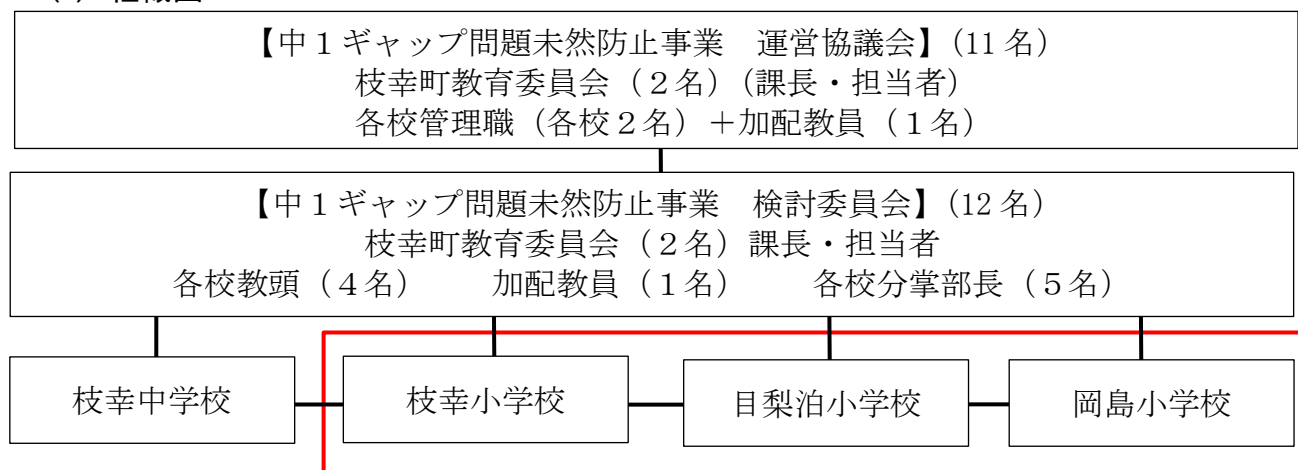
小・中学校間の円滑な連携関係を構築し、教育相談体制の連携や教育活動の改善・充実を図る。

【令和5年度の重点】（2年目継続）

- ・「そろえる」ことで、学校間のずれを解消し、円滑な接続を目指す。
※各小学校間での学習規律、生活規律の共通化の推進
- ・「つなげる」ことで、無駄や段差のない一貫した教育を推進する。
※各小学校間と中学校とのキャリア教育、総合的な学習の時間の系統的な指導計画の作成、実践交流、相互に実態把握
※小学校間での合同授業、中学校体験、児童生徒交流、小中学校間での交流授業
※取組、各種調査結果、分析、改善策等の定期的な交流による情報共有

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・「中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会」の開催で現状を把握し課題を整理することができた。
- ・運営協議会を受けて「中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会」で具体的に児童生徒の状況の交流と課題解決に向けた方策を立案することができた。
- ・運営協議会、検討委員会で明らかになった課題を担当者が各学校で共有し、各校教

頭がリーダーシップを発揮して取組を具体化することができた。

(3) 加配教員の役割

- ア 小・中9年間の教育課程の編成
- イ 「ほっと」や「アセス」、全国学力・学習状況調査、児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の分析
- ウ 調査結果を踏まえた指導方針の作成、改善
- エ 不登校児童生徒の支援策の作成、実施
- オ 不登校未然防止策の作成
- カ 教員による授業参観、中学校見学等の計画と実施

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	枝幸中学校	枝幸小学校・目梨泊小学校・岡島小学校
3月	引継シートによる新入生徒の情報交流 客観的指標 (SOYA サポート結果)・特別支援チェックリスト活用 ・加配教員の引継ぎ参加	
4月	第1回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会 (枝幸中学校) ・枝幸中学校1年生授業参観 ・事業内容、目標、重点、年間推進計画の確認 ・校内体制確立 ・全国学力・学習状況調査自校採点及び分析交流 ・自殺予防教育プログラム実施	
5月	第1回中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会 (枝幸小学校) ・枝幸小学校6年生授業参観 ・情報共有 ①全国学力・学習状況調査自校採点結果・分析 ②要支援児童生徒について ・「ほっと」「アセス」実施① ・令和5年度中1ギャップ問題未然防止事業第1回運営協議会参加	
6月	第2回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会 (目梨泊小学校) ・目梨泊小学校5・6年生(複式)授業参観 ・情報共有 ①「アセス」結果・分析交流 ②第1回いじめアンケート結果 ・自殺予防教育プログラム実施	
7月	第2回中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会 (岡島小学校) ・岡島小学校5年生授業参観 ・情報共有 ①「ほっと」結果・分析交流 ・心と身体のチェック① ・自殺予防教育プログラム実施 ・「ほっとプラス」実施 ・絆づくりメッセージコンクールの取組	
	小中学校教職員合同研修会 特別支援教育に関する研修 (オンライン研修) 【通常学級における支援の必要な児童生徒との関わり方について】 北海道立特別支援教育センター 主任研究員 奥田 裕幸 様	

時 期	枝幸中学校	枝幸小学校・目梨泊小学校・岡島小学校
8月	<p>第3回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会（枝幸小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枝幸小学校6年生授業参観 ・情報共有 ①就学に関わる交流 ②小学校間交流の様子について ③不登校（傾向）生徒実態交流 <ul style="list-style-type: none"> ・心と身体のチェック② ・自殺予防教育プログラム実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校間交流実施
9月	<p>第3回中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会（目梨泊小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目梨泊小学校全校児童 活動参観 ・情報共有 ①児童生徒交流 <ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防教育プログラム実施 ・集団カウンセリング研修会参加 	
10月	<p>第4回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会（岡島小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡島小学校5・6年生授業参観 ・情報共有 ①児童生徒交流 <ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防教育プログラム実施 	
11月	<p>第4回中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会（枝幸中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枝幸中学校1年生授業参観 ・情報共有 ①授業交流週間 ②新入生体験入学説明会について ③引継シートについて <ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防教育プログラム実施 ・枝幸町教育研究会授業公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・枝幸町教育研究会授業公開
12月	<p>第5回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会（枝幸中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有 ①授業交流週間 ②新入生体験入学説明会について ③引継シートについて <ul style="list-style-type: none"> ・どさんこ子ども地区会議参加 ・「ほっと」「アセス」実施② ・授業交流週間の設定 ・「ほっとプラス」実施 ・心と身体のチェック③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・どさんこ子ども地区会議参加小学校 ・保護者・生徒 特別支援学級視察 ・「ほっと」「アセス」実施②
1月	<p>第5回中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会（書面交流）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有 ①不登校（傾向）生徒実態交流 ②「ほっと」「アセス」結果・分析交流 <ul style="list-style-type: none"> ・心と身体のチェック④ ・新入生入学説明会開催 授業見学・部活動紹介・生徒役員との交流、部活動アンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業交流週間の設定 ・新入生入学説明会への参加
2月	<p>第6回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会（岡島小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡島小学校1年生授業参観 ・年度末反省、新年度計画立案 	

時 期	枝幸中学校	枝幸小学校・目梨泊小学校・岡島小学校
3月	第6回中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会（枝幸中学校） ・引継シートによる新入学生徒の情報交流 ・次年度へ向けての引継ぎ	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

小学校間、小・中学校間の連携体制を構築するために、2ヶ月に1度の「検討委員会」において、加配教員を中心に「家庭学習のルール」や「タブレット使用のルール」を交流、確認したことにより、中学校入学後の学校生活への不安を軽減させることができた。

中学校第3学年の不登校生徒数は、昨年度の6名から今年度は4名に減少した。また、不登校生徒の出席日数も増加している。

加配教員を中心として、各教科担任による各種調査結果の実態分析と教科経営の改善を行ったこと、また研究部を中心とした毎月の校内研修を充実させたことにより、ほっかいどうチャレンジテスト2学期末問題において、国語で+3.6ポイント、数学で+13.7ポイント、理科で+12.6ポイント平均正答率が上昇するなど、生徒の学力向上を図ることができた。

○ 効果的な教育課程の改善

中学校区の小学校と連携し、総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画を分析し、学習の継続性と系統性を図る総合的な学習の時間の教育課程の見直しを行った。

小・中9年間を見通した教育課程の編成に向けて、相互の学校行事の参観（6月）及び毎回の「中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会」、「中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会」の前段で授業参観を行い、意見交換を図った。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

否定的な回答が多い生徒を中心に教育相談を行い、全教職員が個票データと集計データを共有することで組織的に対応することができた。

6 今後の課題と対応

○ 家庭学習等の定着に向けた取組

本推進地域の課題である学力向上、特に家庭学習を含めた基礎学力を定着させるために、望ましい学習・生活習慣を確立させるために小学校間で「授業規律」「家庭学習のルール」や「生活の決まり」等の見直しを図り、校区内で共有する必要がある。

○ 児童生徒の交流のさらなる充実

中学校入学前の児童の不安を解消するために、中学校区3校の小学校で、低学年の時期から児童同士の交流を進め、児童間で互いの理解を深める取組を進める必要がある。